



好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html>

最近目にした鶴丸生の掃除

養護教諭 今里英子

私が出勤する時間帯に、野球部がグラウンド横や中庭を掃除してくれています。一生懸命に掃除をしながら、前を通りかかる人がいれば大きな声で気持ちのいい挨拶もしています。体育館周辺ではバスケット部が掃除したり、クラス単位で活動したりすることもありますね。朝から校内いろいろなところで清掃活動に取り組んでいる鶴丸高校で、最近掃除への取り組みが『いまいちだ』という声が開かれます。

鶴丸高校に赴任して五年目になります。が、赴任一年目は、保健室掃除の保健委員に色々注文をつけたことはありませんでした。しかし現在は、コミュニケーション能力が高いのでしょうか、おしゃべりが多いような・・・五年目ともなると色々目につき求めるレベルが上がっているように感じます。

しかし、この二、三年いつ見に行ってもきれいに掃除しているところがあります。進路室前の廊下は有名どころですが、他に紹介したいのは、生徒館四階の男子トイレです。例年このトイレは、三年生の男子が清掃担当なのですが、年度が変わっても清掃への取り組みは変わりません。今年の担当の32Rはどうかな？と先日見に行くと、生徒館の他のトイレと明らかに違うのです。毎日百名以上が利用するはずなのに床が白いです。話を聞くと最初は雑巾で拭いたが汚れが落ちなかったため、スポンジ・タワシで磨いて雑巾で拭きとっているとのこと。ここでも鶴丸の探求心が感じられます。このトイレの話を33Rの担任に話すと、うちの担当のトイレもきれいだよ、と言われ見に行きました。本館一階男子トイレ、ここはさらに綺麗な状態で拭いてくれているそうです。頭が下がります。四階のトイレを見た後、階段を下りていくと、多くの生徒が廊下や階段を雑巾で磨いてくれています。その殆どが三年生です。

したが、その姿を見て、見習おうと思う人、何も感じず掃除の邪魔になっただけという人もあつたかと思ひます。あなたはどうですか？

今回紹介した人(場所)以外にも頑張っている人はたくさんいます。紹介できなくてごめんなさい。日本には昔から八百万の神がいるとされて、トイレの神様・廊下の神様・机の神様・庭の神様等、いたるところで、頑張っている姿を見てくれていて、人生の中でいつか力を貸してくれると思ひますし、何より、頑張る過程で得た能力が、いざという時の一番の力になると思ひます。継続してくださいね。

最後に、トイレ掃除の気持ちを書いた詩を紹介して終わりとします。

便所掃除

濱口國雄

扉をあけます
頭のしんまでくさくさなりませ
まともに見ることが出来ませぬ
神経までしびれる悲しいよごしかたです
澄んだ夜明けの空気もくさくさ
掃除がいつべんにいやになります
むかつくようなババ糞がかけてありま
す
どうして落着いてしてくれないのでし
よう
けつ穴でも曲がついているのでし
やう
それともよつぽどあわてたのでし
やう
おこつたところで美しくなりませ
ぬ
美しい世の中もこんな処から出
発する
のでし
やう
〜中略〜
キンカクシのうらまで丁寧につま
み
社会悪をふきとる思いで力い
つ
ばい
ふ
きます
〜中略〜
朝の光が便器に反射します
クレゾール液が 糞壺の中から七色の
光で照らします

便所を美しくする娘は、美しい子供をうむといつた母を思い出します。僕は男です。美しい妻に会えるかも知れませぬ。



清掃時には、至る所で床を磨く生徒たちが見られます。

山口賢助くん(22R)、二十一年ぶりの新記録達成

第六十四回 ロードレース大会

十一月八日、第六十四回校内ロードレース大会が、桜島で行われました。本校の創立百周年記念誌『創立百年』によると、昭和二十六年(一九五一年)の記事に、「五月十九日午後マラソン大会。男子は一万メートル、女子は五千メートルを走った。」とあります。途中、与次郎ヶ浜などでの開催を経て、現在は桜島で行われています。これまでの記録は、男子が三分四三秒、女子が一八分〇六秒でしたが、今回、二年の山口賢助くんが記録を更新しました。実に、二十年ぶりの快挙です。

生徒たちは、めいめいの目標タイムをクリアすべく、無心で走りまわりました。沿道からは多数の保護者が声援を送ります。そして、走り終わった生徒たちも、友達の応援に、声援を受けた生徒たちは、ゴールテープを切るまで必死に走りまわりました。



【ロードレース生徒感想】

○新記録を樹立した山口賢助くん

ラスト一キロで腕時計に目をやった時、まじりと感じた。三十二分を切れるかどうかというところ。最後の力を振り絞り、フィニッシュラインを駆け抜けたと同時に、再び腕時計を見ると、ストップウォッチは三十二分〇一秒で止まっていた。悪くても三十一分台でゴールする、私はそう心に決めていた。だが、二秒足りなかつた。大会記録を更新して優勝し、多くの人から「おめでとう」と声を掛けてもらい、とても嬉しかった。しかし、達成できるはずの目標に届かなかつた、そのことへの悔しさが、自分の甘さへの意識に変わっていった。

○女子優勝 松下綾乃さん(21R)

雨予報だったこの日は、みんなを後押しするかのようにな少し暑いぐらいの天気でした。陸上部で長距離を専門としている私は、この最後のロードレース大会で、大会新記録を樹立するという目標を持っていました。去年の反省を生かし、入念にアップをし、スタートラインに立ちます。ピストルの合図。一斉にスタート。新記録を樹立するには一キロを三分三十五秒で走ることが絶対条件でした。二キロ地点まではいいペースでした。しかし、そこで立ちどまったのは一つ目の坂です。比較的緩やかですが、疲労がたまり始めていた私にとっては粘りどころです。坂を上り始めました。そこを目標として、前の人



を抜く気持ちで走りまわります。しかし、最難関となったのはその平坦な道でした。私は完全にペーシングし、自分の弱いところを出してしまっていました。ゴールしてみると、優勝こそしましたが目標は達成できず、結果は惨敗でした。ロードレース大会は

○一年男子 中島健人くん(11R)

十一月八日、桜島ロードレース大会。私は今までに十キロの長い距離を走ったことがなく、走りきれぬ不安で仕方がなかつた。だから、この日に向けて毎日三十分、走るように心がけてきた。練習では平坦な道を走っていたため、起伏の多い桜島での走りは練習よりもつらく感じた。七キロを過ぎた頃から脚が重くなりペースも落ちた。それでも気力で走り続けた。

○一年女子 鮫島佳穂さん(14R)

「あと一步、あと一步。」そう思い続けて走りきった五キロは、振り返ってみれば、案外あっという間のことだった。しんどくなつた時は何度も心の中で、「あと一步走つたら止まって歩こう。」と呟いた。それでも結局は止まらずに進み続け、そして、最後の数十メートルでは、飛び交う声援が私の背中を押してくれた。ゴールした瞬間のあの何とも言えない達成感、この先きつと忘れないうらさ。体力や持久力以上の「何か」を与えてくれる、このつらくて苦しい行事に感謝したい。

12月の行事予定

12月		食	休
1	木	卒業考査(4日目) 中間考査(3日目)	○
2	金	1・2年クリスマスマッチ	○
3	土	悠学講座⑦	x
4	日		x
5	月	学年朝会 文化講演会 1,2,3,4限の授業	○
6	火		○
7	水		○
8	木		○
9	金		○
10	土		x
11	日		x
12	月	全校朝会 45分授業	○
13	火		○
14	水		○
15	木	45分授業	○
16	金		○
17	土	悠学講座⑧	x
18	日		x
19	月	学年朝会	○
20	火		○
21	水		○
22	木	1,2,3,4,5,7限の45分6限授業 大掃除	○
23	金	天皇誕生日	x
24	土		x
25	日		x
26	月	冬季悠学講座	○
27	火	冬季悠学講座	○
28	水	冬季悠学講座	○
29	木	3年センタープレ	x
30	金	3年センタープレ	x
31	土		x

